

第1回「草や虫も人も、同じ生きものだ、と感じるのはなぜ？」

田んぼで生まれ育つトンボやカエルのことを知っていますか？田んぼはお米の工場ではなく、たくさんの生きものを育む場所であり、私たちもお米を食べることで田んぼのいのち（自然）とつながっています。現代の農業が抱える問題や、いのちを支える「農」の営みを学び、私たちの果たすべき役割と未来の「農」について考えます。

■日時

2026年2月15日(日) 14:00～16:00 (受付 13:30～)

■会場

江東区文化センター第1・2研修室（3階）またはオンライン(Zoom)

■募集

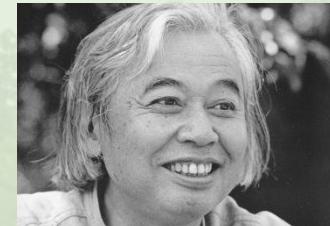
小学5年生以上 会場60人 オンライン60人

会場で参加の小学生は要保護者同伴

保護者1名につき子どもは2名まで可

■参加費：無料

※当日、会場にて講師著書の販売・サインも行います



講師：宇根 豊 氏

農業改良普及員時代に「減農薬」稻作を提唱。「ただの虫」を発見、命名。40歳で百姓となる。50歳で「農と自然の研究所」設立。「生きもの調査」を広げ、「田んぼの生きもの全種リスト」を完成。農学博士。著書は「宇根豊と考える農・食・いのち」上下、「農はいのちをつなぐ」など多数。

第2回「アカトンボやドジョウの視点で考える水田農業」

水田は、稻とともに様々な生きものがくらす場所です。しかし、近年の農薬に頼った栽培法や生産性向上のための整備により多くの生きものが姿を消しています。有機農業やスマート農業が水田における生物多様性保全にどのように貢献または影響を与えるか研究事例を紹介いただき、生きものと共に存した農業や持続可能な社会の実現について考えます。

■日時

2026年2月21日(土) 14:00～16:00 (受付 13:30～)

■会場

江東区文化センター第1・2研修室（3階）またはオンライン(Zoom)

■募集

小学5年生以上 会場60人 オンライン60人

会場で参加の小学生は要保護者同伴

保護者1名につき子どもは2名まで可

■参加費：無料



講師：神宮宇 寛 氏

東京農工大学連合大学院を卒業後、秋田県立大学、宮城大学を経て福島大学食農学類生産環境学コース教授。専門は農村生態工学、農村計画学。

※本講演では、福島大学農村計画学研究室の学生にも研究事例の発表を行っていただきます。

【申込み方法】区ホームページ、またはハガキ等に①講演会名、②氏名（小学生の場合は保護者の氏名も）、③住所、④電話番号、⑤年齢（小学生の場合は学年・学校名も）を記入し、環境学習情報館えこくる江東（〒135-0052 江東区潮見1-29-7）へ郵送または窓口まで

※オンライン参加は区ホームページの申込みフォームのみ

【受付開始】2026年1月6日(火)

(QRコードから区ホームページの申込みフォームへお進みください)

【問い合わせ】電話【えこくる江東】03-3644-7130

※オンライン参加に関するお問い合わせは、

NPO法人 ネイチャーリーダー江東 (info@nlkoto.org) まで



区ホームページ QR コード
1月6日(火) 受付開始